



# 目 次

はじめに.....	1
<b>1 書誌ユーティリティ.....</b>	<b>3</b>
1.1 書誌ユーティリティという言葉について.....	3
1.2 オンライン協同日録作成.....	4
1.3 ILL メッセージ交換.....	6
1.4 総合目録の公開.....	7
<b>2 書誌ユーティリティの誕生.....</b>	<b>9</b>
2.1 成 立.....	9
2.2 OCLC のシステム.....	10
2.3 ユーティリティの概念.....	14
<b>3 書誌ユーティリティのサービス.....</b>	<b>17</b>
3.1 国立情報学研究所のサービス.....	17
3.2 NACSIS-Webcat の使用例.....	20
3.3 NACSIS-CAT の使用例.....	21

3.4	参照ファイル	27
3.5	著者名典拠ファイル	29
3.6	書誌階層構造	32
3.7	新規レコードの作成	33
3.8	NACSIS-ILLの使用例	35
<b>4</b>	<b>日本における書誌ユーティリティの展開</b>	<b>45</b>
4.1	学術情報センターの成立	45
4.1.1	学術審議会答申	45
4.1.2	準備段階	48
4.1.3	文献情報センター	48
4.1.4	文献情報センターから学術情報センターへ	50
4.2	NACSIS-CATの設計	51
4.2.1	RC-ML構想	51
4.2.2	書誌共有型と書誌並列型	53
4.2.3	実体-関係モデル	54
4.2.4	ファイル設計	57
4.2.5	リンク概念	59
4.2.6	レコードフォーマット	64
4.2.7	書誌階層構造	67
4.2.8	著者名典拠	70
4.2.9	仮想画面転送	72
4.2.10	データベース管理システム	78
4.3	NACSIS-CAT初期の運用	80
4.3.1	目録情報の基準	81
4.3.2	2階層化と典拠リンクオプション化	82
4.3.3	VTSS	87

4.3.4	NACSIS-CAT の離陸 .....	90
<b>5</b>	<b>世界の書誌ユーティリティ .....</b>	<b>93</b>
5.1	米国 (OCLC) .....	93
5.1.1	歴 史 .....	93
5.1.2	サービスメニュー .....	94
5.1.3	データベースの特徴と規模 .....	96
5.1.4	システム・ネットワークアーキテクチャの特徴 .....	97
5.1.5	メンバーシップ・組織・財政 .....	99
5.1.6	全体として .....	100
5.2	米国 (RLG) .....	100
5.2.1	歴 史 .....	101
5.2.2	サービスメニュー .....	102
5.2.3	データベースの特徴と規模 .....	104
5.2.4	システム・ネットワークアーキテクチャの特徴 .....	105
5.2.5	メンバーシップ・組織・財政 .....	106
5.2.6	全体として .....	107
5.3	フランス (ABES) .....	108
5.3.1	歴 史 .....	108
5.3.2	サービスメニュー .....	109
5.3.3	データベースの特徴と規模 .....	109
5.3.4	システム・ネットワークアーキテクチャの特徴 .....	110
5.3.5	メンバーシップ・組織・財政 .....	111
5.3.6	全体として .....	111
5.4	オランダ (PICA) .....	112
5.4.1	歴 史 .....	112
5.4.2	サービスメニュー .....	113

5.4.3	データベースの特徴と規模	114
5.4.4	システム・ネットワークアーキテクチャの特徴	114
5.4.5	メンバーシップ・組織・財政	115
5.4.6	全体として	116
5.5	ドイツ (GBV, KOBV, HBZ, HEBIS, BSZ, BVB)	116
5.5.1	歴 史	117
5.5.2	サービスメニュー	118
5.5.3	データベースの特徴と規模	119
5.5.4	システム・ネットワークアーキテクチャの特徴	120
5.5.5	メンバーシップ・組織・財政	121
5.5.6	全体として	121
5.6	デンマーク (DBC/Danbib)	122
5.6.1	歴 史	122
5.6.2	サービスメニュー	123
5.6.3	データベースの特徴と規模	124
5.6.4	システム・ネットワークアーキテクチャの特徴	124
5.6.5	メンバーシップ・組織・財政	125
5.6.6	全体として	125
5.7	スウェーデン (LIBRIS)	126
5.7.1	歴 史	126
5.7.2	サービスメニュー	128
5.7.3	データベースの特徴と規模	128
5.7.4	システム・ネットワークアーキテクチャの特徴	129
5.7.5	メンバーシップ・組織・財政	130
5.7.6	全体として	130
5.8	スロベニア (IZUM/COBISS)	131
5.8.1	歴 史	131
5.8.2	サービスメニュー	133

5.8.3	データベースの特徴と規模	134
5.8.4	システム・ネットワークアーキテクチャの特徴	135
5.8.5	メンバーシップ・組織・財政	136
5.8.6	全体として	136
5.9	オーストラリア (Kinetica)	137
5.9.1	歴史	138
5.9.2	サービスメニュー	139
5.9.3	データベースの特徴と規模	140
5.9.4	システム・ネットワークアーキテクチャの特徴	140
5.9.5	メンバーシップ・組織・財政	141
5.9.6	全体として	141
5.10	中国 (CALIS)	142
5.10.1	歴史	142
5.10.2	サービスメニュー	143
5.10.3	データベースの特徴と規模	144
5.10.4	システム・ネットワークアーキテクチャの特徴	144
5.10.5	メンバーシップ・組織・財政	145
5.10.6	全体として	146
5.11	韓国 (KERIS)	147
5.11.1	歴史	147
5.11.2	サービスメニュー	147
5.11.3	データベースの特徴と規模	149
5.11.4	システム・ネットワークアーキテクチャの特徴	149
5.11.5	メンバーシップ・組織・財政	149
5.11.6	全体として	150
5.12	日本 (NII/NACSIS)	151
5.12.1	歴史	151
5.12.2	サービスメニュー	151

5.12.3	データベースの特徴と規模	152
5.12.4	システム・ネットワークアーキテクチャの特徴	152
5.12.5	メンバーシップ・組織・財政	153
5.12.6	全体として	154
5.13	その他の書誌ユーティリティ	154
<b>6</b>	<b>最近の技術動向から</b>	<b>159</b>
6.1	オープンシステム化	159
6.2	多言語・多文字種	162
6.3	書誌ユーティリティ間の接続	168
6.3.1	Z39.50	168
6.3.2	ISO ILL プロトコル	171
6.3.3	グローバリゼーション	172
6.4	ネットワーク上の資源の目録	173
参 考 文 献		177
欧 文 索 引		183
和 文 索 引		187
あ と が き		191

